



Japan Association for Diabetes Education and Care

世界糖尿病デー2015 JR 西日本 大阪環状線 車体広告の展開について

2015年10月30日

公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院院長 所在地：東京都千代田区）は、11月14日の世界糖尿病デーを含む11月3日(火)～15日(日)の13日間、大阪市内を走るJR西日本 大阪環状線の車両を利用して、糖尿病の啓発活動を実施します。鉄道車両を利用した啓発広告は、昨年につき2回目となります。



※写真はイメージ画像で、実際とは異なる場合があります

世界糖尿病デーは、国際連合が「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を2006年に採択したのを契機に公式に制定されました。決議採択を働きかけた国際糖尿病連合（IDF：International Diabetes Federation）は、ブルーサークルをシンボルマークとして、世界規模での啓発活動を展開しています。日本国内でも日本糖尿病協会と日本糖尿病学会が連携して世界糖尿病デー実行委員会を組織し、毎年11月14日を中心に、各地の著明な建造物をブルーにライトアップして世界糖尿病デーの認知度向上に努めています。

こうしたライトアップに加えて、日本糖尿病協会では、大正富山医薬品株式会社の協力を得て昨年から鉄道車両を利用した啓発広告を実施しています。今年は大阪環状線の1編成8車両を使い、世界糖尿病デー公式ポスターのビジュアルを車体の両面に掲示することになりました。

PRESS RELEASE

糖尿病は、血糖値が慢性的に高くなる病気で、子どもから高齢者まで、どの年代の人もかかる可能性があります。日本糖尿病協会では、今年の啓発テーマを「ライフステージにあわせた糖尿病治療」に設定し、全国的な啓発活動を実施しており、今回の車両広告もその一環として様々な世代に向けた情報発信ができることを目的に実施します。

日本糖尿病協会理事長で世界糖尿病デー実行委員長も兼任する清野裕(せいのゆたか)は、次のように述べています。

「昨年、東京都のJR山手線を利用して同種の広告を展開したところ、若い世代から年配の方まで大きな反響を呼びました。そこで、今年の世界糖尿病デーのシンボルライトアップが京都・東寺であることも考慮し、関西地区での実施を計画しました。

糖尿病は患者さんの年代により生活習慣改善のポイントや治療のゴールが異なります。早期に発見し、適切な治療を継続することで、合併症を防ぎ生活の質を保つことができます。糖尿病患者さんも予備群と指摘された方も、この車両に乗ったことをきっかけに、ぜひ糖尿病を正しく理解し、治療にあたっていただきたいと思います。」

日本の糖尿病患者数は約950万人、予備群は約1,100万人と推計されています^(※1)。また、人口に占める糖尿病患者の割合は男性が16.2%、女性が9.2%となりました^(※2)。

日本糖尿病協会は、この状況を打破するため、世界糖尿病デーをはじめ、様々な機会をとらえて、糖尿病の発症予防や合併症の進展抑制を目指す活動を行って参ります。

(※1) 厚生労働省 平成 24 年「国民健康・栄養調査結果」

(※2) 厚生労働省 平成 25 年「国民健康・栄養調査結果」

【「世界糖尿病デー啓発車両」運転概要】

期間：2015年11月3日（火）～11月15日（日）

※運転期間は予定であり、変更・中止となる場合があります

内容：1編成8両の車体外部に世界糖尿病デーポスターを掲示

周回数：10～20周／日

(ご注意) 本件に関し、JR駅社員・乗務員へのお問い合わせはご遠慮ください。

★世界糖尿病デー関連の情報⇒「世界糖尿病デー公式ホームページ」www.wddj.jp

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麴町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp